Press Release

2017 年 6 月 1 日

# グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）

# 第二期への資金拠出について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、代表取締役社長 CEO：畑中 好彦、以下「アステラス製薬」）は、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（以下「GHIT Fund[1]」、www.ghitfund.org）の活動の第二期となる 2018 年度から 2022 年度までの 5 年間に渡り資金拠出を行うことを決定しましたのでお知らせします。アステラス製薬を含む GHIT Fund の資金拠出パートナーによる第二期へのコミットメントは、総額 200 億円以上の規模となる見込みです。

GHIT Fund は、HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病[2]等の、特に開発途上国の人々を苦しめる感染症の制圧を目指して、日本の技術、知見、イノベーションを用いた治療薬、ワクチン、診断薬の開発を目的として 2013 年に設立されました。日本国政府（外務省、厚生労働省）、民間企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団[3]、英国の財団であるウェルカム・トラスト[4]、国連開発計画が参画するグローバルヘルスの製品開発（R&D）に特化した世界初の官民パートナーシップです。

GHIT Fund の第一期（2013 年度から 2017 年度）において、GHIT Fund は 61 件のプロジェクトに対して約 100 億円の投資を行っています。創薬の初期段階である探索研究から、南米やアフリカにおける臨床試験に至るまで、日本の創薬技術・能力がグローバルヘルスに直接的、かつ効果的に活かされてきました。

アステラス製薬の代表取締役社長 CEO の畑中 好彦は GHIT Fund について次のように述べています。「GHIT Fund は、日本の製薬業界にグローバルヘルスの課題解決に対する意識変革を促しました。具体的には、私たちが持つ製品開発の専門知識と能力を、政府、国際機関、非営利組織などの専門性と組み合わせることによって、グローバルヘルスの諸課題の解決のために、日本の製薬企業がリーダーシップを発揮できる仕組みを作り出しました。」

アステラス製薬は、国際的な非営利官民パートナーシップとして 2012 年に設立された小児用プラジカンテル・コンソーシアム[5]に参画していますが、当該コンソーシアムは GHIT Fund から資金提供を受けています。

アステラス製薬は、当社独自の製剤技術や開発ノウハウを小児用プラジカンテル・コンソーシアムへ提供することで、プラジカンテル小児製剤の開発に貢献するとともに、GHIT Fund への継続的な参画を通じて保健医療へのアクセス（Access to Health）課題の解決に取り組んでいきます。

以上

**[1]GHIT Fund*の資金拠出パートナー（第二期）**

*GHIT Fund：**G**lobal **H**ealth **I**nnovative **T**echnology Fund

- フルパートナー：日本国政府（外務省、厚生労働省）、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカム・トラスト、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、武田薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、富士フイルム株式会社
- アソシエイトパートナー：シスメックス株式会社、大塚製薬株式会社
- アフィリエイトパートナー：協和発酵キリン株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、大日本住友株式会社、田辺三菱製薬株式会社、メルク（Merck KGaA）

**[2]顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases：NTDs）について**

世界保健機関（WHO）によると、顧みられない熱帯病（NTDs）は、熱帯、亜熱帯などの 149 の国と地域で蔓延する感染症で、10 億人を超える人々が NTDs により健康を害していると推定され、毎年数十億ドルもの経済的損失があるとされています。衛生環境が十分に整っていない地域や、感染を媒介するベクターや家畜などに接する機会の多い世界の貧困層が NTDs の影響を受けています。現在、次の 18 疾患*が WHO により NTDs として定義されています。

*WHO が定義する NTDs：ブルーリ潰瘍、シャーガス病、デング熱・チクングニア熱、メジナ虫症、エキノコックス症、食物媒介吸虫類感染症、アフリカ睡眠病、リーシュマニア症、ハンセン病、リンパ系フィラリア症（象皮症）、マイセトーマ、オンコセルカ症（河川盲目症）、狂犬病、住血吸虫症、土壌伝播寄生虫症、嚢虫症、トラコーマ、トレポネーマ感染症（イチゴ腫含）。

**[3]ビル＆メリンダ・ゲイツ財団について**

「誰の人生にも同じ価値がある」との信条に基づき、ゲイツ財団はすべての人々が健康的で生産的な生活を送れるよう活動しています。途上国に対しては、健康問題や飢餓、極度の貧困からの脱出に対する支援に焦点を当て、米国では、すべての人々、特に貧困層の人々が教育機会や通常の生活を送る機会を得るための支援を行っています。ワシントン州シアトルに本部があり、ビル及びメリンダ・ゲイツ夫妻（共同議長兼管財人）とウォーレン・バフェット氏（管財人）のもと、ジェフ・レイクス氏が CEO となり、ゲイツ氏の父親ウィリアム・H.ゲイツ.Sr.氏も共同議長を担っています。ビル&メリンダ・ゲイツ財団の詳細については、www.gatesfoundation.org を御覧ください。

**[4] ウェルカム・トラストについて**

ウェルカム・トラストは医学研究支援等を目的とした財団であり、7 億ポンドを超える資金を科学、教育、公共政策また医療への応用研究等の分野に関連するプロジェクトに向けて投資を行っています。 ウェルカム・トラストのポートフォリオは総額 180 億ポンドにおよび、ヒトゲノムのシーケンス解析、マラリアに対する治療薬の研究開発、また「ウェルカムコレクション」と呼ばれる医療や芸術を紹介する施設の創設等、革新的な研究を支援しています。ウェルカム・トラストの詳細については、www.wellcome.ac.uk をご覧ください。

**[5] 住血吸虫症と小児用プラジカンテル・コンソーシアムについて**

住血吸虫症はアフリカや南米を中心とする発展途上国に多い寄生虫感染症で、特に小児の罹患率が高い疾患です。標準的治療薬であるプラジカンテル錠は、錠剤の大きさに起因する窒息リスクや薬剤の苦みなど、乳幼児を含む就学前児童には服薬が難しいという課題があります。 アステラスは、他の製薬企業や研究機関、国際非営利組織とともにコンソーシアムを設立し、プラジカンテル錠の小児用製剤を開発しています。小児用製剤の創製にあたりアステラスは、独自の製剤技術を供与しました。本剤は、現行錠より小型かつ口腔内で崩壊して水の有無に関わらず服用できるように設計されており、苦みを低減する工夫も施されています。また、生産コストを抑えつつ、簡素な生産技術で製造でき、熱帯地域の高温多湿な環境でも安定性のある錠剤です。小児用製剤開発の技術やノウハウはブラジルの委託製造先に移転し、現地の医薬品製造における能力構築にも貢献しました。コンソーシアムでは現在、第 II 相臨床試験を実施しており、アステラスは引き続きノウハウや技術を提供しています。

**アステラス製薬について**

アステラス製薬株式会社（http://www.astellas.com/jp/）は、東京に本社を置き、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる製薬企業です。既存の重点疾患領域である泌尿器、がん、免疫科学、腎疾患、神経科学に加えて、新たな疾患領域への参入や新技術・新治療手段を活用した創薬研究にも取り組んでいます。更には各種医療・ヘルスケア事業との融合による新たな価値創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの価値に変えていきます。

**注意事項**

このプレスリリースに記載されている開発品に関する安全性や有効性は、検証中のものであり立証されたものではありません。また当局からの承認や製品として使用できるようになることを保証するものではありません。なお、このプレスリリースに含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。

**お問い合わせ先：**

アステラス製薬株式会社
広報部
TEL: 03-3244-3201 FAX: 03-5201-7473